

秋ダイズにおけるカメムシ類の発生と防除

寺本 敏・永井清文 (宮崎県総合農業試験場)

TERAMOTO, S. and K. NAGAI: Occurrence and Control of Stink Bugs on Autumn Soybean Crop in Drained Paddy Field

大豆栽培では子実吸汁加害カメムシ類が生産の重大な阻害要因となる。筆者らは1979～'81年に転換畑秋ダイズにおける本種の発生加害状況と薬剤防除について検討を行ったので、その結果を報告する。

1. 試験方法

発生加害状況は農試場内及び現地(西都市・都城市)の秋ダイズにおいて、立毛時のよみとり法及び収穫時の分解により種類別の生息数と被害粒数を調査した。薬剤散布は、場内においてMP P粉剤2%を供試し、開花期以降子実肥大後期までの7～10日間隔2～4回の散布区を設け、所定の時期に4kg/10aをパイプダスターで散布し本種の発生及び収穫時の被害状況を調査した。

2. 結果及び考察

1) 発生加害状況 第1表に示すとおり、4種の子実加害カメムシ類が認められた。ミナミアオカメムシは沿海地帯に多発し、イチモンジカメムシ及びホソヘリカメムシは広範囲に分布していることが認められた。アオクサカメムシは西部高台地帯に発生がみられたが、その生息数はわずかであった。また、加害程度は沿海地帯が一般に高い傾向にあり、これはミナミアオカメムシの発生量に関連があるものと考えられた。

2) 発生消長 3種とも成虫の飛来は8月下旬の開花期以降で、9月中旬頃に次世代ふ化幼虫が散見され、それ以前は比較的低密度であった。10月の子実肥大期に入ると幼虫の増加がみられ、特にミナミアオカメムシで顕著であつた。

第1表 カメムシ類のピーク時の生息密度及び秋ダイズの被害率率 (%)

地点	種類	ピーク時の生息密度			被害率率 (%)		
		1979	1980	1981	1979	1980	1981
農試	ミナミアオカメムシ	28	8	29	51.9	8.1	30.9
	イチモンジカメムシ	18	18	6			
	ホソヘリカメムシ	3	3	3			
	アオクサカメムシ	—	—	0			
西都	ミナミアオカメムシ	3	5	121	11.6	2.8	29.8
	イチモンジカメムシ	0	2	4			
	オソヘリカメムシ	0	0	6			
	アオクサカメムシ	—	—	0			
都城	ミナミアオカメムシ	3	0	0	48.5	1.2	19.0
	イチモンジカメムシ	10	3	15			
	ホソヘリカメムシ	8	2	14			
	アオクサカメムシ	—	—	2			

注) ピーク時の生息密度は50株当たり生息数、アオクサカメムシは1981年だけの調査であるが密度は極めて低い。

その後減少傾向にはあったが3種とも収穫期までかなりの生息が認められた。なおミナミアオカメムシでは10月中旬頃に成虫が急増したが、これは周辺水稻からの侵入があったためとも思われる。

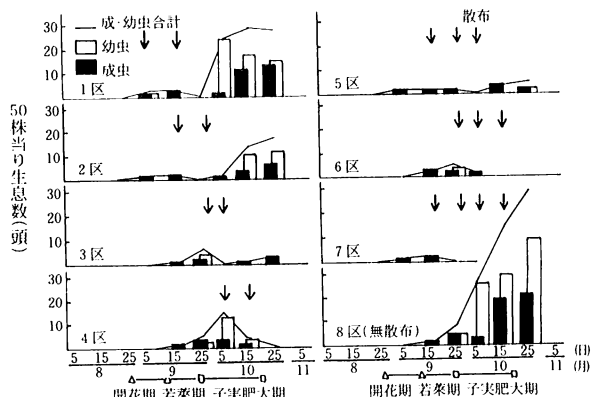
3) 薬剤防除 第1図及び第2表のとおり、開花期と若英期又は若英期と子実肥大初期の2回散布ではその後の密度増加が著しいため、特に充実粒の被害が多く効果は不十分であった。若英期と子実肥大初・中・後期の4回及び子実肥大初・中・後期の3回散布は被害粒率約2% (無散布の約1/10) と最も優れ、これに次いで子実肥大初期以降に2回散布したものが被害粒率約3% (無散布の約1/3) と優れた。

以上の結果から、本県の秋ダイズには4種の子実加害カメムシ類が発生するが、特にミナミアオカメムシ及びイチモンジカメムシが多く、これらが問題である。また、本種の防除時期としては子実肥大初期以降が重要であり、この時期の2～3回散布が必要と認められた。

第2表 薬剤散布時期・回数試験ほ場における子実の被害状況

区別	散布月日					総粒数			被害粒数			被害粒率 (%)		
	9.4	9.17	9.28	10.5	10.15	充実	充実不良	不稔	計	充実	充実不良	不稔	計	
1	○	○				1575	161	15	3	179	10.2	1.0	0.2	11.4
2		○	○			1763	104	14	7	125	5.9	0.8	0.4	7.1
3			○	○		1790	31	16	13	60	1.7	0.9	0.7	3.3
4				○	○	1688	19	17	20	56	1.1	1.0	1.2	3.3
5		○	○	○		1788	32	15	11	51	1.8	0.8	0.6	3.2
6			○	○	○	1711	11	13	12	43	0.6	0.8	0.7	2.1
7		○	○	○	○	2303	18	16	8	42	0.8	0.7	0.3	1.8
8						1651	195	48	52	255	11.8	4.8	5.2	17.8

注) 数値は20株調査の合計値



第1図 薬剤散布時期・回数試験ほ場におけるカメムシ類の発生状況